

海事資料 FAX 短信

(財) 日本海事広報協会

・ 海事情報部 TEL 03-3552-5035 FAX 03-3553-6580

ホームページアドレス <http://www.kaijipr.or.jp/> E-mail jo-ho@kaijipr.or.jp

このFAX短信は、海運、造船、港湾、港運など海事関係団体が最近発行した機関誌や海事関係資料の主な項目、海事団体のイベント情報などをご紹介します。

海のイベント情報等

・ 大阪商船航路案内にみるデザイン展「浪漫航路へのいざなひ」

主催：なにわの海の時空館

大阪商船（現在の商船三井）は明治17年（1884年）に創立され、国内営業を基盤に朝鮮半島や中国・台湾、さらには北米、欧州などの遠洋航路まで展開していきました。また、最も力を入れた南米航路では、優秀な客船を次々に投入しました。

当時、海運会社では、集客や集荷のための宣伝のひとつとして、斬新なデザインのポスターやリーフレットなどを次々に作成し、各社が競って乗客誘致に努めていました。航路案内のデザインを通して、当時活躍していた商船を紹介する本展示会の詳細は、以下のとおりです。

【日時】：11月13日（土）～28日（日）

【場所】：なにわの海の時空館 企画展示場前

（〒559-0034 大阪市住之江区南港北2丁目5番20号）

【開館時間】：10：00～17：00（入館は16：30まで）

【休館日】：月曜日（月曜が祝日・休日の場合は翌日休館）

【入館料】：大人（高校生以上）600円

小人（中学生以下）無料

団体（有料入場者20名以上）540円

【問合せ】：なにわの海の時空館 TEL：06-4703-2900

機 関 誌 ・ 広 報 誌 等

<p>「船と海のサイエンス」秋号 「第10回海上技術安全研究所講演会」 の講演内容 海上技術安全研究所 0422-41-3005</p>	<p>「Blue Earth」No. 108 やってみよう 海と地球の自由研究 第2弾 海洋研究開発機構 045-778-5440</p>
<p>「海っ子」第584号 創立60周年を迎える海洋少年団の改革 ～「海洋少年団アドバイザー委員会」設立～ 日本海洋少年団連盟 03-3553-1818</p>	<p>「よこはま港」No. 103 飛鳥II船長インタビュー 横浜港振興協会 045-671-7241</p>
<p>「港のたより」Vol. 94 みなとオアシス「江差」がスタート 寒地港湾技術研究センター 011-747-1688</p>	<p>「YUSEN」11月号 〈特集〉安全運航に王道なし 日本郵船 03-3284-5189</p>

日本海事広報協会の
旬刊紙「海上の友」

11月1日号の主な記事

- ◆10・27中央総決起集会（全日海）
高速道路無料化政策で雇用と生活は危機に!!
- ◆技術講演会を開催（機関士協会）
近い将来技術的に可能な船
- ◆灯台記念日に全国で行事（海保庁）

◆70名が参加して緊急対応訓練（商船三井・商船三井フェリー）

◆秋は“船上美術館”で（船の科学館）

◆輸送実績（内航総連）

平成20年度から減少傾向に ほか

「海上の友」購読料
年間10,323円
1ヶ月860円（税・送料込）

日本海事広報協会の

隔月刊誌「LA MER」

11月／12月号の主な記事

- ◆〈特集〉咸臨丸太平洋横断150年
・咸臨丸の汽走時帆走時と内部の精密図／咸臨丸の航跡をたどった海王丸／咸臨丸、荒波の太平洋を往く／幕末軍艦の系譜 他
- ◆横須賀でご当地クルーズ「産業観光便」を運航
- ◆伊勢湾フェリー運航継続
- ◆交流船で国後島・択捉島訪問
- ◆太平洋フェリー新「いしかり」が進水！

◆連載

- ・海の仕事人
- ・シリーズ内航船「日海丸」
- ・海族の系譜 倭寇その1 山田吉彦
- ・「海の不思議」を追って 土井全二郎
- ・キャプテン佐久間のおもしろ海話 佐久間誉
- ・名船発掘「小菅丸」「トミニオン・マーク」 他

「LA MER」 定価700円（税込）
・ご購入申込は、全国有名書店
又は弊協会まで。
・定期購読も承ります。